

「都市・地域レポート2007」のポイント

(第I部 都市圏外の地域の状況)

1. 二つの視点からみた「地方」の現状

「地方」において格差感が強く感じられている中で、その現状を把握。
さらに、今後の地域活性化の取組の基礎とするため、新たに2つの視点から「地方」の現状を把握。

(1)「都市圏」外の地域(別添1)

都市圏(人口10万人以上の都市とその周辺の通勤圏、生活圏を形成する地域)を除く地域に着目し、統計指標、意識調査等により現状を把握。

- ・ 国土の49%を占める「都市圏外(全国85の都市圏の外側の地域)」の地域は、人口の約1割が住む、地方中小都市や農山漁村などの多様な地域。
- ・ 都市圏に先んじて生産年齢人口が減少し、後期高齢者が増加(100歳以上の人口の15%が住む。)

(2)離島、半島等の、いわゆる条件不利地域

- ・ 自然条件、地理条件等により指定された条件不利地域の住民は、格差感や、働く機会、医療について状況の悪化を感じている。

これらの地域では、従来、地域経済を支えてきた第一次産業が低迷するとともに、グローバル化の進展と工場の海外移転等・公共事業の減少により、第二次産業の雇用も減少している。

働く機会の創出が共通の課題であり、厳しい状況の中でも、企業誘致のほか、農業とその第六次産業化等内発的な力、地域の総合的な力により多様な雇用の創出を目指す取組もみられる。他方、努力する地域とその他の地域の差が広がることも懸念され、自発的な取組を促す環境づくりや、具体的目標となる地域づくりのビジネスモデルが求められている。

(第II部 都市圏外の地域の多様性と可能性—条件不利地域を中心に)

2. 条件不利地域発小さなイノベーション、小さなクラスター、小さなゲートウェイ

●条件不利地域等からの挑戦:小さなイノベーション、小さなクラスター

豪雪地帯、離島、半島等において、遠隔立地、自然条件の厳しさといった条件不利性を克服し、或いはこれを逆に活かした産業・雇用の創出に向けた取組を紹介。(別添2)

例:クロマグロ養殖(離島地域)、海洋深層水の活用(半島地域)、雪冷熱技術の活用(豪雪地帯)

●世界に開かれた地域づくりを目指して:小さなゲートウェイ

○在日外国人ビジネスマンに対する日本の「地方」に関する調査からみると、我が国の地方の文化、自然等は訪日動機としての可能性はあるが、情報発信が不十分。

○芸術・文化・歴史等に着目し、文化のある地域・人の訪れる地域を目指す取組、東京を介さずに地域が世界に発信する、世界に開かれた地域づくりを目指す取組を紹介。(別添3)

3. 地域の自立的発展に向けた今後の課題の例

○交流人口の増加・多様化のためには、外から見える地域、文化のある地域、人の訪れる地域を目指すための、地域からの情報発信が鍵。

○地域づくりの取組を、着実に働く機会、産業をもたらすものとしていくためには、

- ・ ビジネスの知識・経験と、地域貢献・社会貢献への熱意の両方を有する人材が必要。
- ・ 多様な主体により地域活性化に取り組む組織体制の新たなモデルが必要。